

2019 年度支部活動【九州・沖縄支部】開催報告 「外国人介護人材の受け入れと日本語教育支援」

主催：公益社団法人日本語教育学会 共催：看護と介護の日本語教育研究会

開催日：2019年10月26日（土）

会場：鹿児島大学法文学部1号館2階

参加者：36名（会員14名・一般22名）



九州・沖縄支部においては今年度2回目の支部活動が、2019年10月26日に「外国人介護人材の受け入れと日本語教育支援」をテーマとして開催されました。今回の支部活動は、支部活動企画に応募のあった、「看護と介護の日本語教育研究会」との共催により実現しました。

第一部は、二文字屋修氏（看護と介護の日本語教育研究会幹事/NPO法人AHPネットワークス）による講演で、外国人介護人材の受け入れ制度と受け入れの現状等について、現場からのお話を伺いました。第二部は、神村初美氏（看護と介護の日本語教育研究会副代表幹事/ハノイ工業大学）による教師研修でした。介護現場で使用されるオノマトペを例に、オノマトペの分類と学習者への教授方法を中心に、グループワークも交えた教師研修を実施していただきました。

今回は定員30名のところ、締め切り前に定員に達しましたが、会場に余裕があったため、引き続き申し込みを受け付け、定員以上の方々にご参加いただきました。参加者の約6割は一般からの参加者で、所属は日本語教育機関の他に、介護老人福祉施設や介護福祉士養成施設などでした。また、鹿児島県内のみならず、九州圏内、関西・中部・関東方面からも参加があり、このテーマに対する関心の高さが伺えます。

参加者からの終了後アンケートの評価は全体的に非常に好評でした。自由記述では、「とても学び多き時間でした」「お二人とも現場の経験がたくさんおありの方なのでとても勉強になりました」などの他にも、日本語教育関係者と現場（施設事業者）との交流がもっとあったほうよいというご意見や、九州での開催が少ないので「継続的な研修を年間で計画」してほしいという要望もありました。日本語教育現場の多様性と、地域における研修の必要性を感じた研修会となりました。

講師を引き受けてくださった二文字屋先生、神村先生、遠方よりお越しいただき本当にありがとうございました。また、当日は凡人社による介護・看護の日本語教育関連書籍の販売も行われ、大変好評でした。ご協力ありがとうございました。

（報告者：支部活動運営協力員 中島祥子）